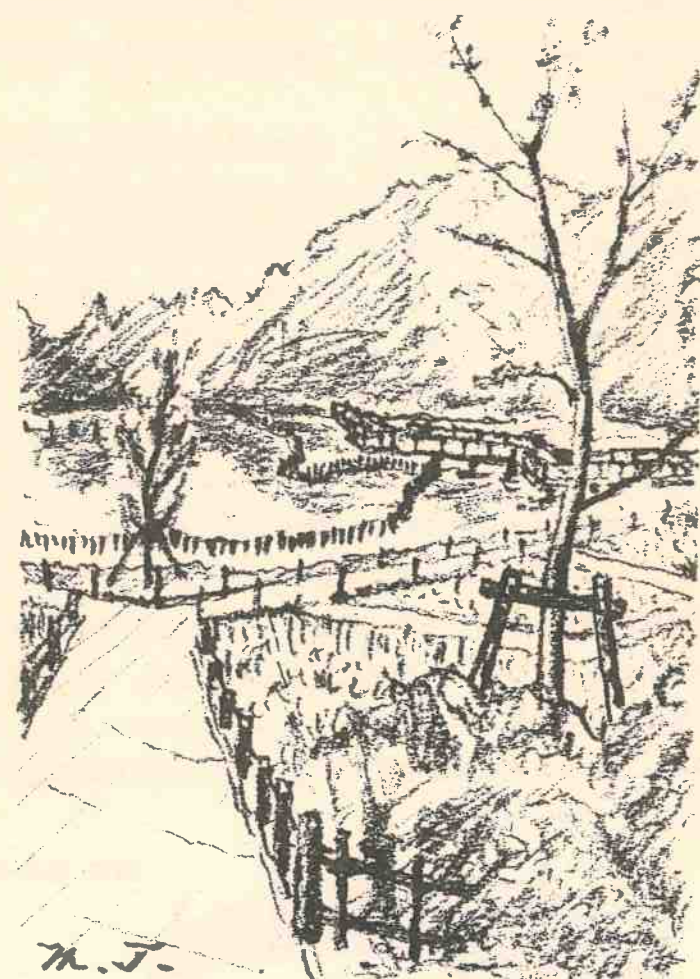


ふれあい 雪谷

平成11年
もみじ号



「洗足池水生植物園」 樽村昌安さんの作品



池の台自治会

[今昔]

自治会
紹介⑦

池の台自治会は大正末期に設立され、当時は洗足栄久会と称し、洗足池の東南に位置する旧池上洗足町の全部と上池上町の一部で組織されました。上池上町の名称は池上本門寺付近の町名と間違われ易く、種々運動の結果、この付近を「池の台」と呼ぶことになり郵便物その他「池の台」で通じるようになったそうです。

昭和10年9月会館が竣成された当時の資料によると、洋裁講習会、書画展覧会、児童のための勉強等々各種文化的活動の場として開放されていました。会館も戦災で焼失し、戦後町会ではGHQの命により解散されましたが、一時期日赤奉仕団として体系を保ち、その後会館も再建され現在の池の台自治会となりました。会館も住民の寄り所として活用されています。

町名の変更により範囲は同じですが、上池台一丁目の一部、二丁目のほとんどと、東雪谷一丁目一部、南千束一・二丁目の一部となっております。

自治会の活動としては、防火防犯・交通安全・防災・清掃に力を入れ、また高齢社会に向けての取り組みかたに考慮しなければと思っています。

それにつけても、ご近所のお付き合い、親睦が大切だと思います。明るく住み良い町作りのために、自治会の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(池の台 石井嘉七)

◆編集後記

猛暑の夏、各地で発生した水害の時期もどこかへ去り、二学期の子供達の元気な声がきこえます。

洗足池水生植物園の誕生、健康法の体験や区内史跡の紹介など、もり沢山の内容を収めました。今後内容の充実にも努めますので、身近な情報をぜひお知らせ下さい。

編集委員・渋谷十四子さん(南雪谷)の多年の労に感謝いたします。

(南雪谷 飯田七造)

〔発行〕わがまち大田雪谷地区推進委員会

〔編集〕ふれあい雪谷編集委員会

連絡先 雪谷特別出張所内

大田区東雪谷四一三一二三

電話 三七二九一五一七

〔発行日〕平成十一年十月一日

通巻第三十六号

サークル紹介⑦

洗小硬式テニス同好会



洗足池小学校のお母さん達で作る同好会に硬式テニスクラブがあります。平成八年六月に発足して四年目に入ったばかりの、一番新しい同好会です。毎週木曜日の午後四時から校庭で活動しています。夏場は六時まで練習できますが、陽の短い冬場、特に十二月・一月は午後四時半位になると真つ暗で球が見えず、休会になります。

業などに合わせて一人抜け二人抜けしてちよつと寂しくなりました。それでも今年は新しい会員五人を迎え頑張っています。皆、外に仕事を持ったり、まだ小さい子どもがいたり、それぞれに忙しい思いをしながらも、日頃の運動不足解消のため、また昔の体型を取り戻すために(?)と、週一回の活動をとても楽しみにしています。もちろん帰宅後の食事の支度にも手を抜いたりしません。(?)

(石川台 田村ゆかり)

私の健康法②

これからは「自分の健康は自分で守る」セルフケアの時代です。①食事 ②運動 ③清潔そして④気持の持ち方。この四つを心にとめて、自然で無理なく次のことを実行しています。

最後に、明るく若い気持ちで笑顔を忘れず、人とのふれ合いを大切に。おしゃべりして外出し、ショッピング・美術鑑賞・観劇・旅行等でストレスも解消です。

運動は朝の洗足池でのウォーキングと地域の人達とラジオ体操、背筋を伸ばし、ゆっくり深呼吸。

清潔はきれいな衣服を身につけて、うがい、手洗い、ぬる目のお風呂にゆったりつかって気持ちも穏やかに。

(池の台 K・O)

洗足池の移り変わり

まだ明けやらぬ池の周辺は、顔馴染みの人達の挨拶をかわす声が聞こえる。散歩をする人、マラソンをする人、ベンチで世間話をしている人達など、朝の洗足池は地元の人の憩いの場所でもある。

数年前の浚渫工事と浄化設備で、池の水は随分きれいになった。これにつれて岸边の一部には木道が造られ、水草が植えられた。続いて洗足池の風景を大きく変えたのは、見事な太鼓橋の完成であった。

昔この辺りは神社の参道に沿って葦の茂る湿地が小さな入江になっていた。春には、カルガモなどが子連れで泳ぐ姿が見られた。今は太鼓橋の架橋で半分は池で、残りは小庭園とメタセコイアの大木が育っていて、対岸から見る太鼓橋のよい借景となっている。

このように池の周辺はよく整備されたが地元の人々の大きな関心は閉鎖された釣り堀の跡地の利用であった。広大な土地だけに用途の選択には慎重な検討がなされたことと思う。地元の人々の多くが自然の風物の減少には一抹の淋しさを感じ、出来れば池の自然が戻るような施設をとの願いがあった。

その期待が遂に吉報となった。「洗足池水生植物園」の誕生である。誠に喜ばしいことである。洗足池は昔から高僧日蓮が憩い、北斎が浮世絵に残した名所であり、海舟・隆盛の偉勲を語る由緒ある地でもある。池畔の桜も有名で新しいこの植物園の開設は、池を訪れる人にもうひとつの観どころが出来たことになる。植えられた葦や蒲など30余種が根付き茂り池の周辺の樹々と水場に集まる小鳥の囀り水鳥の可憐な姿などが四季のうつろいを演出してくれるのが楽しみである。

これは聞いた話であるが北欧のある街の中を自然の美しい河が流れていた。街当局で洪水被害防止に河幅を拡げコンクリートで護岸工事をした。その故で河中の水草、小魚の姿が消えてしまった。住民は実情を当局に陳情を重ねた結果、遂に当局も完成した施設を取りこわし危険箇所のみ再工事をして河をもとの姿に戻した。今は水草も育ち清流が街をもとの風景にもどしているとのことである。この街の人々の自然環境に対する思いは貴重であると思う。洗足池も地域の財産である。大切にしたいものである。



(笹丸 濱邊一雄)

小池稻荷神社(子安八幡神社)の由来



小池稻荷神社は小池自治会館の隣に建立しています。今より約140年前(安政5年)毎年のように凶作に悩む小池の村人達は、豊作と無病息災を念願し京都の伏見稻荷神社の分身をお遷して頂こうと村人達7人にて京の都に旅立ちました。

村人達は京都伏見稻荷神社にて、吉辰の日の丑満時に、奏楽の音も厳かに御神体の授与が行われ、お遷の儀に浴しました。

村人達一同は、喜びの内に大任を果たし、小池村へ戻り、森井庄右衛門方の屋敷内に小祠を建立し、奉安をして信仰いたしました。

京都伏見稻荷の鎮座は、遠く奈良時代、元明天皇の和銅4年初午の日とされています。古来、衣食住の太祖・殖産と興業の守護神として、朝廷をはじめ、民衆の信仰が厚く、全国の稻荷の総社となっています。

明治35年になって、各屋敷内に散逸している小祠を合祠する事に決め、現在の社屋・鳥居を建立して奉安をいたしました。

村人達は大いに喜び合い、お祝いとして毎年初午祭や、その他の行事等もここで行われ、人々の和合・親睦をはかりました。

昭和33年、小池の人達は本社の子安八幡神社(根方)に参拝するには、遠方でなかなか参詣が困難なので、当小池稻荷神社に子安八幡神社の御分神を合祀する事に決めました。そこで本社宮司に依頼し、9月大祭の時に御分神を頂き、合祀奉安をいたし、現在にいたりました。

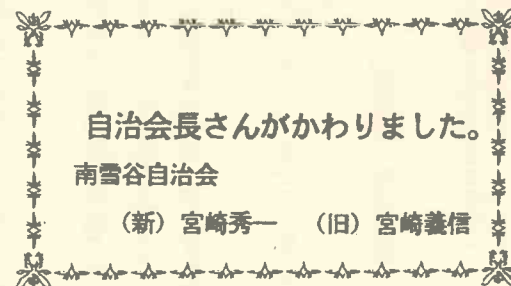
御祭神は、ほんだむけのみこと 応神天皇(譽田別命)が祀られています。

本社の子安八幡神社は、今より約7百年前、御深草天皇の時代、康元元年6月に、領主池上右衛門大夫宗仲が、武州池上山(現在の池上本門寺)鶴岡八幡を勧請奉ったのに始まります。

以来、本門寺をはじめ池上郷の鎮守として広く住民の崇敬あつく、毎に臨産の女性の崇拝は頗る多く、靈驗あらたかにして祈願の思いが届くという事で、子安八幡の名がつけられたといわれております。

その後、明治6年に村社に列せられ、供進指定社に定められて、ますます氏子の崇敬厚く現在に至っています。

(小池 山下雅己)



自治会長さんがかわりました。

南雪谷自治会

(新) 宮崎秀一 (旧) 宮崎義信

自治会リレー随筆

北向き庚申の由来について



東中バス停留所前に、北に向かってつくられた、2基の石碑が納められています。向かって右側の石碑には、「南無妙法蓮華經、南無釋迦如来、奉唱萬首題壹千流成就唱題一結二十五人雪谷村、天和三年(1683年)癸亥霜月(11月)五日」と刻まれています。

当時は第112代靈元天皇の御代であり、約315年前に創立されたことになります。また、左側の石碑は46年後の造りで「享保14年(1729年)巳酉年三月吉日施主直井忠右衛門、直井源八郎、直井平左衛門、直井磯右衛門、直井藤左衛門、直井久右衛門外一名の計七人で創立」と刻まれてあり、第114代中御門天皇の御代で、徳川五代将軍綱吉が位についた頃です。

当時の世相は、綱吉将軍の道德や仁政、生類をあわれみ殺すことを禁止した。特に綱吉将軍は成年生まれなので、野良犬でも殺した者は死刑にされ、犬公方将軍で有名であった。

その後の(1701年)赤穂藩主浅野長矩家老大石良雄外46人は忠臣の模範とされ賞賛する時代であった。

今日では、毎年5月の第2日曜日に、長慶寺住職、崇敬会講元・会員で、健康で快適な生活、商売繁昌を願って例大祭を執り行っています。現在崇敬会会員約50名でお守りしておりますが、地域の皆さん是非一度、お詣りにいらしゃいませんか。

(東中 S・N)



俳句 短歌

釣堀へ子を呼んでをり鯛雲

(小池 斉藤あつ子)

稲架襖連なる富士の裾野かな

(小池 鎌木きぬ子)

名も知らぬ草も種子もつ秋の原

(希望ヶ丘 横山聰雨)

縫ふ母に編む娘読む子や秋灯

(希望ヶ丘 横山茶々)

初紅葉中禅寺湖を鏡とす

(笹丸 小倉英靖)

降る雨に傘触れあふも笑みかわし

讀りあひゆく見知らぬ女と

(笹丸 濱邊はつ子)

